

(案)

# 第七次国有林野施業実施計画書

(高知森林計画区)

計画期間  
自 令和 7 年 4 月 1 日  
至 令和 12 年 3 月 31 日

四国森林管理局

# 目次

1	国有林野の区画の名称及び区域並びに機能類型及びエリア別の区域.....	1
2	施業群の名称並びに区域、伐期齢又は回帰年、上限伐採面積、伐採箇所ごとの伐採方法及び伐採量並びに更新箇所ごとの更新方法及び更新量.....	1
	(1) 伐採造林計画簿.....	1
	(2) 水源涵養タイプにおける施業群別面積等.....	1
	(3) 水源涵養タイプの施業群別の上限伐採面積.....	1
	(4) 伐採総量.....	2
	(5) 更新総量.....	3
	(6) 保育総量.....	3
3	特に効率的な施業を推進する森林の所在地及び面積.....	4
4	林道の整備に関する事項.....	5
5	治山に関する事項.....	7
6	保護林及び緑の回廊の名称及び区域.....	8
	(1) 保護林の名称及び区域.....	8
	(2) 緑の回廊の名称及び区域.....	9
7	樹木採取区の名称、所在地及び面積.....	9
8	レクリエーションの森の名称及び区域.....	10
9	国有林野と一体として整備及び保全を行うことが相当と認められる民有林野の整備及び保全等に関する事項.....	11
	(1) 森林共同施業団地の名称及び区域.....	11
	(2) 公益的機能維持増進協定の名称及び区域.....	11
10	その他必要な事項.....	12
	(1) 施業指標林、試験地等.....	12
	(2) フィールドの提供.....	13
	(3) その他.....	13

※ 本計画書内の集計表に関して共通する注釈  
単位未満四捨五入により、計と内訳が一致しない場合がある。

1 国有林野の区画の名称及び区域並びに機能類型及びエリア別の区域

機能類型の配置については、国有林野施業実施計画図による。

2 施業群の名称並びに区域、伐期齢又は回帰年、上限伐採面積、伐採箇所ごとの伐採方法及び伐採量並びに更新箇所ごとの更新方法及び更新量

(1) 伐採造林計画簿

伐採・更新箇所ごとの伐採・更新面積及び方法等については、別添2「伐採造林計画簿」に示すとおりである。

(2) 水源涵養タイプにおける施業群別面積等

(単位：ha)

施業群		面積	取扱いの内容	伐期齢
施業群	スギ分散伐区	436	育成単層林施業 概ね5ha以下	45年
	ヒノキ分散伐区	300	〃 〃	50年
	スギ長伐期	1,986	〃 〃	90年
	ヒノキ長伐期	658	〃 〃	100年
	複層林	1,102	育成複層林施業	80年
	スギ長伐期複層林	555	〃	130年
	ヒノキ長伐期複層林	166	〃	100年
	択伐	2,058	天然生林施業	定めない
	ぼう芽分散伐区	47	育成単層林施業 概ね5ha以下	15年
施業群設定外		139		
合計		7,445		

注：施業群設定外は試験地等である。

(3) 水源涵養タイプの施業群別の上限伐採面積

(単位：ha)

施業群分類	上限伐採面積	備考
通常伐期施業	94	スギ分散伐区、ヒノキ分散伐区、ぼう芽分散伐区
長伐期施業	143	スギ長伐期、ヒノキ長伐期
複層林施業	197	複層林、スギ長伐期複層林、ヒノキ長伐期複層林
天然林・その他施業	定めない	択伐

注：契約に基づいて主伐を実施する分収林については、水源涵養機能の発揮に支障がない限り、箇所ごとの伐採面積の合計が上限伐採面積を超えて定めることができる。

## (4) 伐採総量

(単位：m<sup>3</sup>、ha)

区 分	林 地					林地 以外	合 計
	主 伐	間 伐	小 計	臨 時 伐採量	計		
山地災害防止タイプ	—	18,078 (133)	18,078				
自然維持タイプ	—	—	—				
森林空間利用タイプ	—	5,742 (50)	5,742				
水 源 涵 養 タ イ プ	スギ分散伐区	32,765	2,684 (18)	35,449			
	ヒノキ分散伐区	7,257	—	7,257			
	スギ長伐期	—	110,325 (579)	110,325			
	ヒノキ長伐期	—	27,884 (173)	27,884			
	複層林	—	26,248 (224)	26,248			
	スギ長伐期複層 林	20,514	10,948 (79)	31,462			
	ヒノキ長伐期複 層林	—	3,313 (36)	3,313			
	択 伐	—	2,513 (13)	2,513			
	計	60,536	183,915 (1,122)	244,451			
合 計	60,536	207,735 (1,305)	268,271	14,360	282,631	—	282,631
年 平 均	12,107	41,547 (261)	53,654	2,872	56,526	—	56,526

注：（ ）は、間伐面積である。

## (再掲) 市町村別内訳

(単位：m<sup>3</sup>)

市町村名	林 地					林地 以外	合 計
	主伐	間伐	小計	臨時 伐採量	計		
高知市	1,000	2,606	3,606	/	/	/	/
南国市	—	—	—				
香美市	59,536	205,129	264,665				
計	60,536	207,735	268,271				

注：臨時伐採量及び林地以外の土地に係る伐採量は含まない。

## (5) 更新総量

(単位：ha)

区 分		山地災害 防止タイプ <sup>°</sup>	自然維持 タイプ <sup>°</sup>	森林空間 利用タイプ <sup>°</sup>	快適環境 形成タイプ <sup>°</sup>	水源涵養 タイプ <sup>°</sup>	合 計
人工 造林	単層林造成	—	—	—	—	56	56
	複層林造成	—	—	—	—	37	37
	計	—	—	—	—	93	93
天 然 更 新	天然下種第1類	—	—	—	—	—	—
	天然下種第2類	—	—	—	—	—	—
	ぼう芽	—	—	—	—	—	—
	計	—	—	—	—	—	—
合 計		—	—	—	—	93	93

## (6) 保育総量

(単位：ha)

区 分		山地災害 防止タイプ <sup>°</sup>	自然維持 タイプ <sup>°</sup>	森林空間 利用タイプ <sup>°</sup>	快適環境 形成タイプ <sup>°</sup>	水源涵養 タイプ <sup>°</sup>	合 計
保 育	下刈	—	—	—	—	540	540
	つる切	0	—	—	—	12	13
	除伐	11	—	—	—	42	53
	計	12	—	—	—	594	605

注：「0」は、単位未満の数値であることを表す。

3 特に効率的な施業を推進する森林の所在地及び面積

(単位：ha)

所在地（林小班）			面積
(高知中部)	17	い1、い2、い4、い7、い9～い11、ほ	808.64
	26	ほ、と	
	27	り	
	28	い7～い9	
	51	い	
	55	ろ1、は、ほ、へ、ち	
	57	は	
(嶺北)	57	ろ、は、ぬ、わ1、わ2	808.64
	58	ろ、は、は1～は3	
	60	い	
(高知中部)	61	ろ3、は、れ	808.64
	63	は	
	80	い4、い5	
	81	は1、に、ち、か3	
	82	へ	
	89	の	
	91	か、よ	
(嶺北)	94	と	808.64
	95	ろ、ろ1、ろ2、は	
	96	い、ろ	
	97	い、い1～い4、ろ	
	98	い、ろ、は	
	99	い、ろ、は	
	101	い、い1、い2、い11、ろ	
	102	い、い1、ろ、は、は1、は2、に	

4 林道の整備に関する事項

(単位：m)

基幹・ その他別	開設・ 改良	路線名	箇所(林班)	延長	備考
基幹	開設	猪野々	11、12、15	700	
		宇筒舞90線	77、84、87	500	
		基幹計	2箇所	1,200	
その他	開設	井地山	43、44	200	
		その他計	1箇所	200	
開設計			3箇所	1,400	
基幹	改良	中の川	96～99、101、102	500	
		宇筒舞90線	87、89、90	200	
		杉熊	68～72、民有地	200	
		桑の川	78～82、民有地	200	
		成山	70～74	200	
		桃草	77～80、民有地	100	
		宇筒舞	88、89、民有地	200	
		柚ノ木	5～9	200	
		猪野々	9～14、民有地	200	
		谷相(高知中部)	2～4、民有地	200	
		楮佐古	16～20、民有地	100	
		西熊	91、民有地	100	
		大栃	49～52、55、60、 61、63、民有地	100	
		林道笹一笹上線	24、民有地	100	
		畑山	153、154、民有地	100	
		林道西熊一 別府線	38、54、55、91、 民有地	100	
		谷相(嶺北)	57～60	200	
		基幹計	17箇所	3,000	
その他	改良	中の川・黒森線	95	200	
		行者	64～66、民有地	200	
		井地山	38～43	200	

基幹・ その他別	開設・ 改良	路線名	箇所（林班）	延長	備考
その他	改良	杉熊	68、72	200	
		東笹	25～29	200	
		上葦生	39、91、民有地	100	
		宇筒舞 89 線	89	100	
		大栃 63 線	63	200	
		桃草 80 線	80	100	
		西熊	36、37、91	200	
		楮佐古	16、民有地	100	
		峰ノ子	76、民有地	200	
		別府山 51	39、50、51	100	
		不寒冬	104	100	
		その他計	14 箇所	2,200	
		改良計			31 箇所
合計			34 箇所	6,600	



## 5 治山に関する事項

位 置 (林班)	区 分	工 種	計 画 量
(高知中部) 9、11、12、13、14、28、52、 73、74、75、76、79、80、81、 82、88、89、90、91	保安林の整備	その他 (森林整備)	150.00ha
(高知中部) [21~26]、[76~82]、 [84~90]、[91] (嶺北) [57~60]	保全施設	溪間工	5 箇所
(高知中部) [49~63]、[64、65]、 [66~72]、[91] (嶺北) [57~60]		山腹工	5 箇所
合 計	保安林の整備	その他	150.00ha
	保全施設	溪間工	5 箇所
		山腹工	5 箇所
		計	8 箇所

注1：林班[ ]の区分は、事業評価の地区単位。

注2：保全施設の計は、溪間工・山腹工が重複する箇所は1箇所として集計した。

注3：災害復旧等緊急を要する場合には、計画箇所以外においても実行可能。

6 保護林及び緑の回廊の名称及び区域

(1) 保護林の名称及び区域

(単位：ha)

区分	名称	面積	位置 (林小班)	特徴等	備考
生物群集 保護林	にしくまやま 西熊山	保存地区  478.99	(高知中部) 32 い、に、ほ、へ 33 い、ろ、は、に 34 い、ろ、は、に	暖温帯から冷 温帯までの林相 の垂直分布が見 られ、ブナを主体 とする多様な樹 種が生育する。	
	いしだてやま 石立山	保存地区  121.56	(高知中部) 56 は	暖温帯から冷 温帯までの林相 の垂直分布が見 られる。石灰岩か らなる急峻な山 岳地であり、露岩 地にはビャクシ ンが生育するほ か、石灰岩固有の 植物等が生育す る。	
	計	600.55			
合計	2箇所	600.55			

注：生物群集保護林は、自然状態が十分保存された天然林を主体とする「保存地区」と、保存地区に外部からの影響が直接及ばない緩衝の役割を果たす「保全利用地区」に区分している。

## (2) 緑の回廊の名称及び区域

(単位：延長 km、面積 ha)

名称	延長	面積	位置 (林小班)	特徴等	備考
四国山地緑の回廊・剣山地区	25	4,000.36	(高知中部) 23 ふ、イ 24 全 25 る 26 り 27～29 全 30 と、ち、り 1～り 3、ぬ、る、わ、か、よ、た、れ、そ、な、ら、む、イ 31 全 32 ろ、は、イ、ロ 33 イ、ロ 34 イ 35～37 全 38 は、に、へ、イ 39 ほ 53 ろ 54 ち、り、イ 55 ね、な、イ 56 い、ろ 58、59 全 60 ろ、は、に、ほ、へ、と、ち、り、ぬ、る、る 1 61～63 全 64 い、ろ、は 1～は 5、ほ、ほ 1、へ、と、ち、り、ぬ、る、わ、わ 1、か、よ、た 65 い、ろ、は 1、は 2、に、ほ、と、ち、り、ぬ、る、わ 66 ろ 1～ろ 4、は、に、ほ、り、ぬ、る 1～る 7、わ、よ、た、れ、そ、ね、な、ら、む、う、の、お、く、や、ま、け、ふ、こ、え、て、あ、さ、き、き、ゆ、め、み、し、ひ、も 67、68、72 全	四国の脊梁に位置する剣山を中心として、東西及び南方面へのびる国有林野において、千本山天然ヤナセスギ(遺伝資源)希少個体群保護林等の保護林を連結することにより、森林の連続性を確保し、貴重な野生生物の移動経路を確保し生育・生息地の拡大と相互交流を促すことを目的として設定。	
合計	25	4,000.36			

7 樹木採取区の名称、所在地及び面積  
該当なし

8 レクリエーションの森の名称及び区域

(単位：ha)

種類	名称	面積	位置 (林小班)	選定理由	施業方法	既存施設の概要	施設整備	備考
自然休養林	くいしやま 工石山	161.59	(嶺北) 94 い、ろ、は、に	モミ、ツガ、 ブナなどの天 然林とスギ、ヒ ノキの人工林 からなってお り自然的、人工 的森林美を兼 ね備えた地域 である。	育成複層 林施業			風景ゾーン
			(嶺北) 94 ほ、へ、ち		天然生林 施業			
			(嶺北) 93 い、ろ、は、に、ほ					
計	1箇所	161.59						
風景林	とさ 土佐 やはずやま 矢筈山	186.35	(高知中部) 23 ふ 24 い、ろ、は、に	コメツツジ や高山植物の 生育する広い 笹生地の眺望 の素晴らしさ。	天然生林 施業			
			(高知中部) 23 イ 24 イ、ロ		雑地			
	みうね 三嶺	897.53	(高知中部) 31 に、ほ、へ 32 は 36 に1～に3、り1 ～り3 37 ほ 38 に 91 い、い1～い3、 ろ、は、に、ほ、へ、 と、ち	「森の巨人 たち百選」のイ ヌザクラ、トチ ノキ (35～1)	育成複層 林施業			
(高知中部) 30 つ、ね、な 31 い、ろ1、ろ2、 と、ち、り、ぬ 32 ろ 35 い、ろ、は、に、 ほ、へ1、へ2 36 は、ほ、へ、と 37 い、ろ、は、に 38 は、へ 39 ほ 91 れ、そ、つ、ね	天然生林 施業							
(高知中部) 31 イ 32 イ、ロ 33 イ、ロ 34 イ 35 イ 36 イ 37 イ 38 イ	雑地							
計	2箇所	1,083.88						
合計	3箇所	1,245.47						

9 国有林野と一体として整備及び保全を行うことが相当と認められる民有林野の整備及び保全等に関する事項

(1) 森林共同施業団地の名称及び区域

(単位：ha)

名 称	対象地（林小班）		面 積	協定の概要
南国市中ノ川地域の森林整備推進に関する協定	民	香美森林組合事業地 （黒滝地区森の工場）	1,094.59	間伐 作業道開設等
	国	黒森山国有林 95、96 林班 中ノ川山国有林 97～99、101、102 林班	532.75	主伐、間伐 作業道開設等
合 計	民		1,094.59	1 箇所
	国		532.75	

(2) 公益的機能維持増進協定の名称及び区域

該当なし

10 その他必要な事項

(1) 施業指標林、試験地等

(単位：ha)

種類	名称	設定年	面積	位置 (林小班)	備考
試験地	スギ人工造林 収穫試験地	昭和42年	4.91	(嶺北) 95は	施業方法を異にした場合の成長量、収穫量及びその他資料を収集するとともに分構造の推移を解明。
		昭和42年	2.44	(嶺北) 98は	
	針広混交林への更新技術の開発	平成20年	10.20	(嶺北) 106い3	
次代検 定林	スギ次代検 定林	平成18年	0.75	(高知中部) 52と31	第2世代精英樹の特性調査等(育種集団林)。
		平成26年	0.56	(高知中部) 66へ2内	
		平成元年	1.18	(高知中部) 5た	精英樹系統種苗の遺伝的特性を検定するとともに、地域環境に対する適応性を明らかにする。
	ヒノキ次代検 定林	昭和63年	0.49	(高知中部) 89こ	
	クスギ試植検 定林	平成10年	0.21	(高知中部) 12は6	実用化の可能性が高い品種の苗を試植し、生産性を明らかにする。
展示林	ドイツトウヒ 外	明治45年	0.26	(高知中部) 2へ	国民への森林施業についての広報等に活用するため設定。
モデル 林	水土保持長期 育成モデル林	平成12年	33.80	(高知中部) 51い	公益的機能重視の森林施業をPRするため、長伐期施業を推進するモデル林として設定。
		平成20年	79.33	(高知中部) 3い	水源涵養機能重視を高度に発揮させるため、物部川上流域における作業道開設と組み合わせた列状間伐推進モデル林として設定。
溪畔 林	(設定河川等) 上韮生川	平成27年	(設定延長) 1,040m	(高知中部) 30ほ、へ、ね、う	森林生態系ネットワークを形成するため、溪流等と一体となった森林の連続性を確保するよう設定。

(2) フィールドの提供

対象地（林小班）	設 定 の 目 的	備 考
(高知中部) 52 と 1、と 2	ふれあいの森 (別府・物部川ふれあいの森)	実施主体： 物部川 21 世紀の森と水の会 協定面積：3.26ha

(3) その他

森林空間利用タイプのうち、レクリエーションの森等を除く区域の施業方法

(単位：ha)

位 置（林小班）	面 積	施業方法
(嶺北) 93 へ (高知中部) 28 リ 29 に 30 た、そ、ら 36 ろ、ち	126.22	天然生林施業

注：レクリエーションの森等とは、レクリエーションの森、ふれあいの森等協定の森林、施業指標林、試験地等のことである。